

# 「共通語」で「変革の四月」

## 1. 「変革」は成長のエネルギー

右掲は、前号でご紹介したように3月8日に行きつけの喫茶店のママから頂いた「アボカド」から始まったエピソードを「独り言」川柳として詠んだものです。幾つになっても「ときめく」事が大切で、ちょっとしたプレゼントをキッカケに妄想力が働いた様子を詠んだものです。やっぱり、プレゼントを頂ければ「嬉しい」し、その行為から「妄想」を膨らませる事があるが、サミュエル・ウルマンの詩「青春」のように幾つになっても精神的若さを保つ事が必要なので「不踰矩」を弁えておけば問題に発展しないと思っています。

プレゼント  
少しときめく  
我が残春

また、新しい事を始めるには「キッカケ」が重要であり、そのキッカケをチャンスにして即「3回連続」で集中する事により、手がかりが見つかり「コツ」となって「勢い」をつけ、それを続けて「流れ」と定着する事がポイントと考えています。この「独り言」川柳では右掲の2つの句も同時に詠んでいます。最初の句で手応えを得て、その勢いで2つを詠んだのです。

勢いは  
連続3回  
これホンマ

「残春」と表現しているが7月に74才になる身なので、残りの人生を潤いがあるように心をとときめかす「妄想力」が精神的若さだと思っています。「不踰矩」を弁えて行動する事で問題を起こさないように心がける事がポイントだが、「変革」はそれでは始まらないのです。故船井先生の「3回安定10回固定の法則」をベースにして、「連続3回」で「勢い」、「10回連続」で「流れ」を作ること「DNA」に喩えています。たぶん、プレゼントの交換を続ける間柄になって「流れ」になるとは思っていますが、プレゼントするセンスを磨く事が課題になります。自分流のプレゼント法を開発したいと思っています。

10回連続  
流れとなつて  
DNAになる

## 2. 「勢い」と「流れ」

右掲はパワーポイントで字体を麗楷書体にして JPEG にした物です。独り言川柳と言いながらもFacaBookやブログにアップして友達に読んでもらっていますので、少し「らしく」したいと思い JPEG 変換を行ったものです。筆書きばくなって川柳の風情が出て来た感じがします。「連続3回」すると集中力が高まり、川柳のコツみたいものが見えて来て、表現に関してはなんとかなりそうなので、残るは「題」を見つける事が課題になって来ました。

プレゼント  
少しときめく  
我が残春

何事も「勢い」と「流れ」が大切ですが、川柳を詠むという「勢い」が出来たと思っていますので残るは「流れ」を維持する事です。つまり、「題」を見つける事が課題で日常生活の過ごし方を少し変える事になります。昔は「花まる主義」で一日の終わりに良かった点を列挙していましたが、それだけでは、「題」を見つける事が難しいのです。少し、日常生活の中で俯瞰して見る習慣が必要になり、俯瞰して発見できる課題から「題」にするのがベースの習慣になると思います。つまり、日常から選び、さらに一ひねりを加える習慣のように思っています。まさに、NHK番組のチョコちゃんのセリフ「ボーっとしているんじゃないよ」という事です。

右掲は4作目と5作目です。3月11日は東日本大震災の日なので、震災を「題」にしたものと体力の衰えを実感した事を詠んだものです。何かエピソードがあると「題」にしやすと感じていますが、日常の中では数あるものではないので自分のひねり出す能力にかかっています。そういう意味で今年の「変革の四月」は大きな課題への挑戦になります。まさに、73才にして技術ではない分野で新しい能力を磨く事になります。この「磨く」という事が課題であり、それは一気に行なうものではないが、ある日、閃いて大きくジャンプアップするモノと思っています。

楽しい夜  
明日が怖い  
白秋期  
大震災  
掛け声かけて  
ひとまわり

### 3. 「心の若さ」を楽しむ

サミュエル・ウルマンの詩「青春」は「肉体の若さでなく、精神の若さ」と教えていますが、「心」を「行動」に移す事がポイントです。「ザイアンスの法則」は「未知・未体験のことに不安を感じるが、回を重ねるごとに不安が薄れる」と言っていますが、「川柳」という新しい分野、全く未知ではないが、未体験に近い分野に挑戦する不安が大きな「障壁」です。「独り言川柳」という分野を知っていても機会がなかったので着手できなかったが、「プレゼントへのときめき」で詠んでみたら、「残春」の言葉に気付き、自分では大いに気に入った出来栄えになって扉が開いたのです。

私自身は満73才なので「白秋期」の終わりで「玄冬期」の入り口に差し掛かっている。「老け込む」事がないようにする必要があります。「独り言川柳」を「分かっている」状態から「出来る状態」に移行する動機がポイントであり、「プレゼント」をキッカケに「ときめき」感じた事を「残春」で詠んだのです。「心」に残る若さを実感したのです。肉体的な衰えは抵抗できませんが、心の若さがあれば肉体的にも若さが生まれて来ます。自分にも「残春」があると「ときめく」事でプラスエネルギーになって表情も若くなると確信するのです。

「老後」は単調な生活になりやすいので、脱「単調」で新しい分野へのチャレンジです。例えば、「題」を求めて桜の開花を見に出かけるなどの行動につながる事がポイントです。そして、一人で行くより多くの方と行く方が楽しいので「企画」するようになるのです。「企画」は、実はペルソナを想定するので具体的に「誰」かとなるのです。「誰」かを通して多くの方を巻き込むことになります。私自身は「世話を焼く」という事は、そういう流れでないと思いません。つまり、「情けは人の為ならず」と言いますが自分が「誰」を想定する事で企画を楽しめるようになるのです。

### 4. 共通語でムードメイク

WBCでヌートバー選手が大活躍してペッパーミルの仕草を挙げ、自分もチームメイトも観客も真似て一つになっていました。一体化にはムードメーカーが必要だが、新しいスタイルを広めてくれました。ペッパーミルはシンプルな仕草だが球場全体を一つにする立派な共通語になっていて、意味は「小さなことからコツコツと継続して進んでいけば、良いことが起きる」との事で大リーグで流行っているようですが、結構、愛嬌のある仕草で誰もが使える共通語になっていました。

私の「変革の四月」は「独り言川柳」にチャレンジだが、ヌートバー選手のペッパーミルのように共通語になるものを詠みたいという事になります。運動や仕事で社内を引っ張るのは難しいかも知れないが、川柳を詠む事ならチャレンジできるのでシンプルな表現で共感を得るものにしたいと思います。「クスっ」と誰かの心に響いて心境の変化に役立てば最幸です。

「変革の四月」、イメージチェンジと言うのは簡単だが行なうのは難しいので、「独り言川柳」を詠むのをキッカケにしてチャレンジしたいと思います。73才の変身だが、可能性があると思っています。若い人やお客様との共通語になってコミュニケーションに役立ち、自分の「若さ」を發揮したいと思っています。俄か「川柳」だが、結構、楽しめています。これなら「ホンマ、共通語」になる可能性があると思っています。

